



広

報

2009
10/10

No. 542

あ

い

づ

ば

ん

げ

秋





最優秀賞

桜木町「銀魂（ギンタマ）」

本町



工業振興協議会長賞
「本町の手塚ワールド」

緑町



アイディア賞
「REBORN」

上町



美術賞
「スポンジ・ボブ」

柳町



技術賞
「天・地・人」

茶屋町



ライオンズクラブ賞
「ワンピース」

新栄町



商工会長賞
「ドラゴンボール」



秋の空が広がった9月12・13日に、ばんげ秋まつりが開催されました。
稚児行列では、鮮やかな着物に身を包んだ子どもたちが町内を練り歩きました。





古坂下「千と千尋の神隠し」



新町「モンスターズ・インク」

小原



ユーモア賞
「こちら小原区中央公園前派出所」

仲町



青年会議所賞
「出でよ龍神～仲町の為に～」

橋本



観光物産協会賞
「メイちゃんの執事」

新富町



ロータリークラブ賞
「ドラえもん」

鉄砲町



観光物産協会賞
「ブリーチ」

諏訪町



ファンタジー賞
「ディズニープリンセス」



仮装山車コンクールに登場した坂下地区15自治会の仮装山車は、今年も工夫を凝らした力作ぞろい。審査会場前では、子どもたちが練習を重ねてきたパフォーマンスを披露しました。

審査員による審査の結果、今年は桜木町が最優秀賞を獲得しました。

坂下地区以外にもたくさんの子どもたちが参加しており、笑顔がとても印象的でした。

震源は会津坂下町
マグニチュード6.9、震度6強

大地震発生!!



町全域で大きな被害が発生！
高寺地区では地すべりにより道路が寸断。
旧町内では火災が発生。
家屋の倒壊が著しく多数の負傷者がいるもよう。





大規模地震を 想定した 町を挙げての 防災訓練

災害時の冷静な行動と
的確な判断は、日頃の訓練が
あってこそできる。

会津地方防災訓練では
およそ2,500人が参加して
災害時の備えを確認した。
住民も参加しての消火訓練や
救出訓練が本番さながらに
繰り広げられた。

各地区ごとに行われた避難訓練(長井地区の様子)

会津地方防災訓練が9月5日、坂下小学校を中心に行われました。訓練は地震により町内全域で家屋の倒壊や火災、道路の破損、交通機関・上下水道・電灯線・電話線などの施設に多くの被害が発生。また、負傷者も多数という想定で行われました。

午前八時、会津坂下町を震源としたマグニチュード6.9、震度6強の大地震が発生しました。その直後、町では災害対策本部を設置。被害情報の収集に当たりました。

情報が集まる中、旧町内では火災が発生。建物も倒壊し、負傷者が多数いる模様。

報告を受け、対策本部では被害の大きい旧坂下地区を中心に、防災無線を使って避難



を指示。同時に町職員と消防団員で避難誘導に当たりました。

住民の避難が完了した各区長・自治会長からは、避難者数や被害状況が対策本部に次々と報告されました。

高寺地区では地すべりが発生し、道路が寸断し孤立したため、県警ヘリの出動を要請。高寺地区の住民を救出しました。



見明地区の避難の様子



救援物資輸送訓練



消防団による放水訓練



消防ヘリによる
救出訓練



細菌汚染・化学薬品汚染を 想定した災害対応訓練

今回の訓練では細菌汚染・

化学薬品汚染を想定したB
C対応訓練(※)が実施さ
れました。(写真①・②)

近年の多様化する災害の
なかで、「サリン事件」や
アメリカでの「炭疽(そ)事
件」など無差別な殺傷を目
的とするテロ事件が発生し
ており、そのような災害に
対応するための訓練が必要
となっています。

訓練では、防護服を身に
付けた特別救助隊員が、負
傷者や機材からの2次汚染
が広がるのを防ぎながら、
トリアージ(※)を行い、
重症と判断された被災者は
救急車で医療機関に運ばれ
ました。

また、消防団女性班によ
り身近な物をつかった応急
手当訓練も行われました。
(写真③)

※₁ B C訓練…

B (Biological=生物)、C (Chemical
=化学)物質による災害に対応する
ための訓練

※₂ トリアージ…

一人でも多くの人に最善の治療をす
るため、緊急度や重症度などによって
治療や搬送の優先順位を決めること



赤十字奉仕団と坂下婦人会による炊き出し訓練

豆知識

応急危険度判定



3種類の表示をして注意を呼びかけます

応急危険度判定とは、大地震により被災した建築物を調査し、倒壊の危険性や外壁・窓ガラスの落下、付属施設の転倒などの危険性を判定することにより、人命にかかわる二次的災害防止を目的としています。

判定は建設の専門家が個々の建築物を直接見て回り、その結果は見やすいところに表示されます。

これにより、居住者や付近を通行する人に注意を呼びかけるとともに、被災者の建物に対する不安を取り除き、精神的安定にもつながると言われています。



坂下小学校(上)・坂下幼稚園(右)の避難の様子と、坂下小学校体育館に設営された避難所(下)の様子



坂下は大丈夫。
そう思っていないませんか？

「災害は、いつどこで起こるかわからない。」それは誰もが理解していることです。

しかし、頭のどこかで「坂下は大丈夫。」「大地震なんてどこか遠いところの話」と思っていないでしょうか？

いざ災害がおき、自分の、家族の身に危険を感じた時、自主的にすぐ逃げるなど、早い判断が被害を防ぐために非常に重要なのです。

そのためには、普段から災害が起きた時にどう行動するのか、家族とはどう連絡を取り、どこに集合するのか。また、避難する時に何を持っていくのかを家族で、地域で話し合っておく必要があります。

一人ひとりの普段の心がけから、災害に強い町を作りましょう。

